

# 農地中間管理事業に対する担い手の声

(平成 28 年 10 月～11 月)

## 「東温市 花きの青年農業者の意見」 H28. 10. 27

県が開発したデルフィニウム新品種「さくらひめ」は愛媛ブランドに取り上げられたこともあり、全国 200 店舗をもつ(株)日比谷花壇に卸している。

輸送は、農協がトラック便で東京市場まで送るので、残る課題は出荷できる量を増やすこと。若い人に呼び掛けて栽培する仲間を増やそうと思っている。苗の供給は、業者に頼むと高いので、県の農林水産研究所に頼っている。生産量を増やすには、この種苗生産の部分を何とかしなければならない。今年、育苗に取り組んでみたが思ったほど難しくはなかった。簡単な冷蔵施設があればいいように思う。

共同出荷するには、集荷の施設が必要になる。立派な施設を考えているわけではなく、安く借りられる倉庫をあたろうと思っている。何か支援があるとありがたい。

花の生産では、トルコギキョウなども作っているが、花木がいい。これからは使われない農地がいくらかでも出てくる。いまでも遊休農地は多くあるし、誰も借り手がない。花木なら露地で栽培できるし、手がかからずに収入になる。ユーカリやシキミなどは確実に需要があるし、農協も推進している。経営の一定部分は花木で確保し、「さくらひめ」をメインにおけば、安定した経営ができるように思う。ただ、露地の花木といってもさほど面積はこなせない。

高齢者は、今後十年ほどですべてリタイアするので地域の農地は荒れてくる。集落営農組織が必要と地域の中で話しているが、いまひとつ盛り上がらない。

## 「今治市 農業法人での意見」 H28. 11. 25

現在、28ha (約 300 筆) の農地を預かっている。申し出のあったところは受けてきたが、対象とする地域が 20 地区以上もあり、これ以上は難しい。主な作物は米・麦・さといも・キャベツなどである。

農地の貸借はまず 1 年契約で行い、その農地の良し悪しを判断している。農地を預かってほしいという要望は多いが、すべてには対応できない。

農作業の受託については、野菜の収穫から選別、草刈り、米・麦の栽培や管理など幅広くあり、年々、増加している。人材派遣会社と連携して常時、20 名ほどは確保しているが、法人であるため、経営面と農地を守る役割とのバランスが難しい。経営を考えれば効率的に作業ができる場所を選びたいが、農地を守る役割を重視すれば作業性の悪いところも断りにくい。

今更、水田を整備するような時代でもないし、基盤整備した中には、耕地 10a に対して法面が 5a という水田もあって、草刈りにまる一日を要している。

JA の管内すべてはカバーできないので、地域で話し合っただけで自分たちで農地を守ろうとするところを応援したいと思っている。法人に任せっきりでなく、草刈りや水路掃除、水利の当番は自分たちでするなどの役割分担があってしかるべきである。集落営農組織や担い手がいるところは、そちらを優先してもらおう。

集落から人がいなくなっている中で、守るべき農地とそうでない農地は区分していくことが必要である。それが優良農地かどうかは一概に言えない。所有者にとっては転用が期待できる農地は優良農地になる。作る作物の種類や施設栽培かどうかによっても適した農地は違う。残すべき農地かどうかは、集落で話し合ってもらうことが基本だろう。行政か機構が、そうした方針を示して頂ければ進むのではないかな。